

区議会6月会議(6月24日~7月9日)での本会議質問、保育園誰でも通園制度や シルバーパスー律1000円の補正予算などについて日本共産党の質疑などご紹介します。



全国の自治体で「エネルギー物価高 騰対策支援補助金」などの直接支援がおこなわれてきました。また、岩手県や 高崎市など、賃上げを行った企業への直接支援を行っています。区内中小事業 者の声も聞き直接支援の検討、実施を求めました。



【問】 **区内商店振興対策** 農林水産政策研究所が定義する自宅から500m以内に店舗が ない高齢者など食料アクセス困難地域は区内に少なくありません。

今ある商店街に新しい店舗を誘致する対策を提案しました。

【答弁】国や都で中小企業 支援を行っている。区とし ては今年度からマル経融資 利子補助などを始めた。商 店対策では賃料補助や空き 店舗チャレンジ支援を行っ ている。



暮らしの痛みに寄り添い、物価高騰 /// 対策で最も効果のある消費税減税を国 ←に求めるべきと質しました。

区長は社会保障の安定的な財源とし て重要な役割を果たし、地方消費税交 付金も区安定財源。税全体のあり方は 国で議論すべきことと答弁。

【問】エアコン購入・修理と電気代の補助 エコ助成の改善

区の高齢世帯などへのエアコン助成が2019年に終了。 再度、命を守るエアコン購入・修理助成と電気代補 助の実施を求めました。また、エコ助成対象のエア コンは高額なため、補助を増額するなど制度の改善 も提案しました。

【答弁】エアコン助成は目的を達 成した。電気代補助は極めて困難 である。エコ助成は多くの区民が 活用できるよう取り組む。





【問】物価高騰で介護難民うまない、介護・障害施設への緊急支援を

訪問介護事業所などで全国的に休業・廃業が増 加し、介護難民をうみかねない事態です。

世田谷区は介護・障害施設に緊急給付金を実施、 品川区は訪問介護事業所に報酬引き下げ分の差額 支給などを実施しており、荒川区でも区民の命と 介護を守る緊急支援を求めました。

【答弁】介護サービスの確保には緊 急的な支援ではなく、人材確保と経 営基盤のための支援が重要であり、 安定した運営のための支援を行う。

【答弁】受益者負担などから有料化。

過度な負担とならない料金設定とし、

がん予防の重要性を周知・啓発する。

【問】がん検診の有料化は中止し、受診率向上に具体策を

区の無料がん検診は 早期発見に役立ってお

り、2026年度からの有料化・がん予防センター廃止の計画は、区民の命にかかわること。 葛飾区は今年度から無料に。有料化でなく受診率向上と早期発見の取り組み強化を求めました。

【答弁】実施の予定はない。

【問】フリースクール通学者への昼食代補助を

荒川区でも不登校児童生徒数は2023年度409人で、

小学校4.5倍・中学校1.8倍。フリースクールに通う児童生徒に、学校給食費教材費の 無償化に合わせて、昼食代及び交通費の支給を行うことを求めました。

「こども誰でも通園」より 希望者が入れる保育環境整備を

3歳未満児は、人見知りや環境の 変化で不安定になる時期です。

慣れない場所で見知らぬ保育者に 預けられる子どもの負担、ストレス

が大きく、試行園では「泣きっぱなし」の子どもが多かっ たようです。

短時間初めての子ども を日替わりで受け入れる には十分な体制と保育士 のスキル、経験が必要で すが職員の増員がありま せん。親の就労にかかわ らず子どもの育ちを応援

「こども誰でも通園制度」

就労有無や理由を問わず、0~ 2歳の未就園児が保育施設を時間 単位(1時間300円)で利用。

今年度は第二東日暮里保育園一 時保育室で定員2名。開始時期は 検討中。

するならば、希望者全員入園の保育園拡充と保育士の処 遇改善が先です。

現状の一時保育、預かり保育の拡充で対応を

冠婚葬祭・学校行事・研修講習参加や育児疲れなど、 一時的に保育園で預かる「一時保育」があります。

親子が自由に遊べる「子育て交流サロン」2か所では 週に1回一時預かりを実施。サロンに通っている顔見知 りのお子さんで、子どもも保育士も安心して過せます。 「二つの事業」の条件整備を行い、家庭児保育の支援を さらに拡充することを提案しました。



💶 シルバーパスの負担軽減 議会での追求と住民の声で区政が動きました

「少しの違いで課税となり 購入を諦めた」という方が 多くおり、日本共産党区議 団は5,000円パスの条例提案

をしてきましたが、区 も他会派も否定的な態 度に終始してきました。

共産党都議団も繰り

課税者20,510円に区が 補助し負担軽減を図る 条例を2009年・2010年・ 2018年・2020年に提出

都議会では2024年12月に一律 1000円の提案。

立民・ミライ・ネット・グリー ン賛成。自公都ファ維新反対

返し求め、今年10月から20,510円を12,000円に引 き下げることになりました。

区はこれを受け、さらに70歳以上の希望者全員が1,000円で取得できるよう、 差額11,000円助成の補正予算5400万円が6月会議に出され、

自民党は所得制限をつけるべきと修正案を提案しましたが、 賛成多数で原案可決。長年の議会追求と住民の声が実りまし た。都民全体の制度にすることを改めて東京都に求めます。



区の政策決定過程の透明化・公開で前進



区は、シルバーパス負担軽減を拒否してきた方針を180度転換。 しかし、どういった議論があり、どの時点で踏み切ったのか、 十分な説明はありませんでした。

政策決定過程の透明化のため、区の最高決定機関である庁議の議事録などの 公開を要求、11月頃検討開始、5月8日の庁議で決定したことが判明しました。 今後区は、庁議の審議要旨をホームページで公開することを検討しています。

区政の主人公は区民です。区政の透明化、情報公開をさらに求めていきます。

日本共産党荒川区議会議員団ニュース

2025年夏号 NO.172

発行:日本共産党荒川区議会議員団



☎3802-4627 FAX:3806-9246 ⊠arajcp@tcn-catv.ne.jp